



- すまいる駐車場
- ▶
- 小河宇麻志神社
- ▶
- 小河薬師堂
- ▶
- 光庵源重郎築池記念碑
- ▶
- 小河山観音寺
- ▶
- 観音堂の賓頭廬尊者
- ▶
- 大石良雄像
- ▶
- 小河観音古墳
- ▶
- 矢野村道路表元標

光庵源重郎築池記念碑

江戸時代2代・3代の光庵源重郎が小河川上流に池所の池を築いた。明治になり、光庵家は池所の池を村へ寄贈、明治29年村は築池記念碑を建立した。赤穂郡長古田庸の題字、山島亭助村長の撰によるもの。

小河山観音寺

本尊 十一面観世音菩薩を祀る

平安時代、役小角が清水をくんだ自然石を観音菩薩と拝み、僧行安が一堂を創建した。これが観音堂の始まりである。新田義貞の感状山城攻撃で堂宇を消失したが、明暦元年浅野長直公が堂宇を再建した

観音堂の賓頭廬尊者(びんずるそんじゃ)

仏弟子である十六羅漢の中で第一の尊者。出家して阿羅漢果を証し神通力を得た。自分の具合の悪いところを撫でて拜むと治ると信じられていることから「撫で仏(なでぼとけ)」ともいう。観音堂には、元禄15年に鑄造された鰐口(わにぐち)がある。宮本武蔵が書いたといわれる絵馬があったが焼失した。

大石良雄像

昭和11年、当山の48回開扉にあたり、矢野出身者でつくる神戸矢野会石野定市ほか46名の有志が建立した。この像は昭和19年に軍需で供出され、台石のみがのこっていたが、昭和47年に再建された。

小河観音古墳 1・2号墳

1号墳は大石良雄像のすぐ裏の山裾にある。古墳時代後期(6世紀)の円墳で、横穴式石室があり、玄室に箱式石棺の一部が残っている。2号墳は標高120米の高所にある。

矢野村道路元標

道路元標は、大正9年、旧道路法施行令によって各市町村に一個ずつ設置され、里程(みちのり)の基準点となった。相生市内には、当時の町村数の4基があった。

小河宇麻志神社

祭神 宇麻志阿斯詞備比古遅神

江戸時代までは馬子大明神といい蘇我馬子を祭神としていた。明治維新以降、呼び名が相通することから宇麻志阿斯詞備比古遅神を招請した。享保年間の棟札によれば、この神は紀州小河の里から三濃山に飛来、光明四方に輝いた後小河にうつり、享保年間に現地に祀られたという。

神馬図絵馬(しんめずえま)

(平成12年相生市指定有形民俗文化財)

享保14年(1729)に奉納された。繫飾り神馬は太い墨線で力強く描かれている。馬には神座(かみくら)とするための白布を飾り画面中央には割り杏葉菊の紋章がみえる。この絵馬には、一年間の好天と五穀豊穰を願う人々の祈りが込められており、農耕社会の風習を伝える貴重な民族資料である。

宇麻志神社の農村舞台

大正10年に拝殿左手に北向きに建設された。舞台前の広場が少し傾斜して、自然の客席となっている。間口10m、奥行き4.9m、床高60cmで太夫座が設けられている。

小河薬師堂

中所薬師と呼ばれ、一間四方の堂宇で、大鐘があったが軍需に供出し今は鐘楼のみが残る。耳の遠い村人が石に穴を開け紐を通して祈願した石がある。

●源重郎池(池所の池)

いけどこの池は、小河の集落から北へ4Kmばかり入った場所にある。池所とは池をつくるのに適当な地であることから、池所と書いて「いけどこ」と呼ばれていた。光庵源重郎が自分の所有地に自費をもって築地し、小河村はこの池水のおかげで田地はうるおったという。享和2年に工事を起こし、天保6年まで3代にわたる事業によって築造された。

●北峯の滝

源重郎池への道は、改修されて自動車でも池まで行けるようになっている。途中に北峯の滝が流れ落ちている。滝の見える道端に、平成18年9月、小河地域活性化協議会が建てた「小河 北峯の滝」の石碑がある